

漁業資源・漁場調査と情報提供事業

安江尚孝・高橋芳明・山根弘士・小川満也・木下浩樹

目 的

漁業資源の適切な保存及び合理的・持続的な利用を図るための資源診断・動向予測・最適管理手法の検討に必要な基礎資料を整備するとともに、和歌山県周辺海域における海況のモニタリングを行う。また、調査結果をもとに、関係漁業者・団体に情報提供を行う。

なお、本事業は水産資源調査・評価推進委託事業による。

方 法

2022年4月から2023年3月に主な標本市場（図1）で、漁獲データ収集等の資源調査（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、シラス、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、スルメイカ、サンマ、ブリ、ムロアジ類、タチウオ、イサキ、ハモ、マルソウダ、クマエビなど）を行うとともに、漁業調査船「きのくに」を用いて、海洋観測（卵稚仔調査を含む）を月1回、沿岸定線24定点及び浅海定線18定点において実施した（図1）。

結果及び考察

上記魚種について、標本市場での漁獲データを蓄積した。主たる魚種の漁獲動向を図2に示す。瀬戸内海標本2市場（西脇、栖原）の船びき網によるシラスの漁獲量は、3～4月に少なく、5～10月に多かったが、年を通して継続した漁獲があった。瀬戸内海及び紀伊水道外域標本3市場（比井崎、御坊市、田辺）のまき網によるサバ類漁獲量は、4月と11月にピークがあり、8～11月に比較的多かったが、年間漁獲量は平年並であった。マアジ漁獲量は、3～4月と10～12月にピークがあり、3～4月は平年を上回ったが、年間漁獲量は平年を下回った。マルアジの漁獲量は、3月と産卵期の5月に比較的多かったが、すべての月で平年を下回った。瀬戸内海標本1市場（加太）の一本釣りによるマダイの漁獲量は、2月に最も多かったが、すべての月で平年を下回った。紀伊水道外域標本1市場（南部町）の棒受網によるウルメイワシの漁獲量は、盛漁期の6月を含めてすべての月で平年を下回った。

海洋観測の結果については、国立研究開発法人水産研究・教育機構（水研）、各都道府県水産試験場及び一般社団法人漁業情報サービスセンターで構成されるネットワークシステム（FRESCO）を用いてオンラインデータベース化を行った。また、海洋観測の結果を整理した海洋観測表を公表した。水研による資源診断・動向予測の対象魚種については、水研により資源評価が策定、公表された。その他の魚種については、水研により資源動向がとりまとめられ、公表された。迅速に公表することが有効な情報については、「漁海況情報」や「紀伊水道春シラス漁場調査速報」などを通じて関係漁業者・団体に提供した。「第53回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議」、「令和4年度太平洋イワシ、アジ、サバ等長

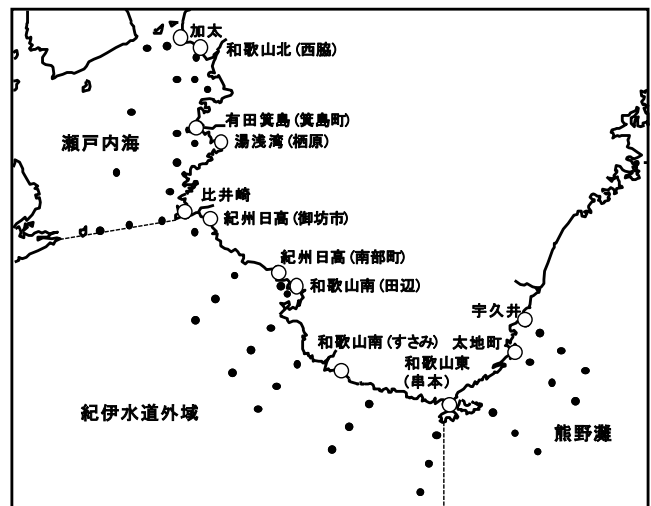
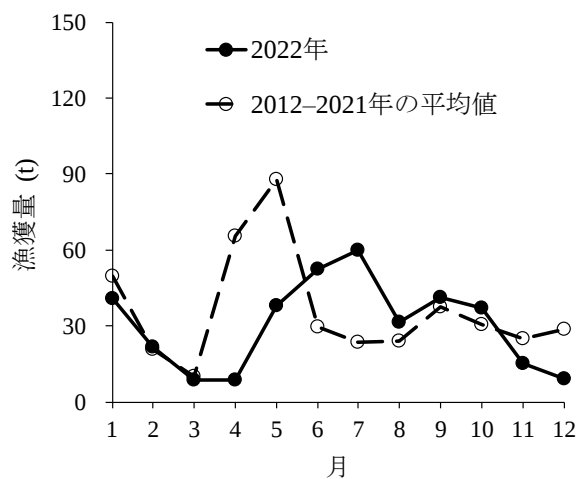
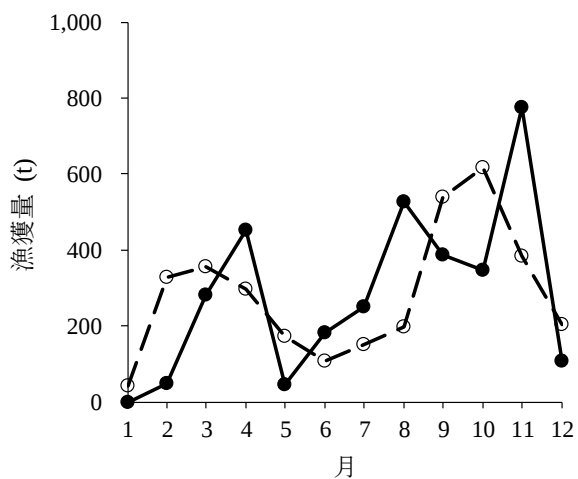


図1 主な標本市場（○）と海洋観測定点（●）

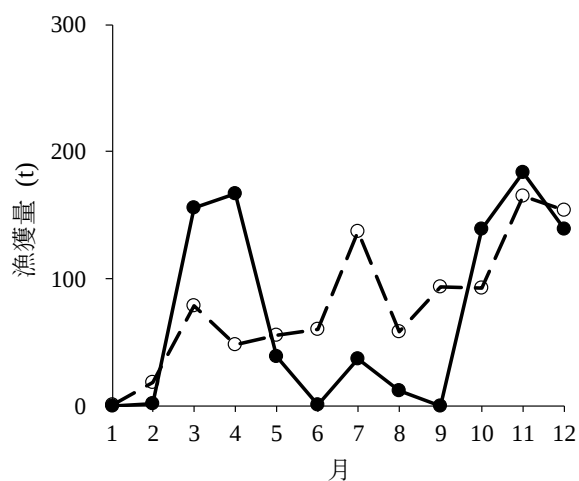
期漁海況予報会議」，及び「令和4年度中央ブロック卵・稚仔，プランクトン調査研究担当者協議会」などにおいて，本事業の調査結果を報告し，水研により漁況予報や会議報告書が公表された。



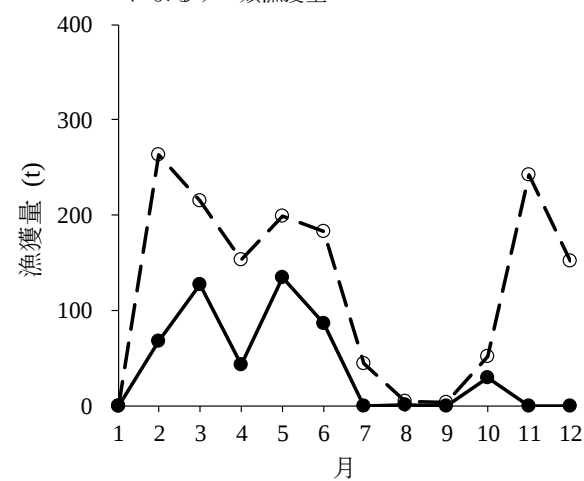
瀬戸内海標準2市場の船びき網によるシラス漁獲量



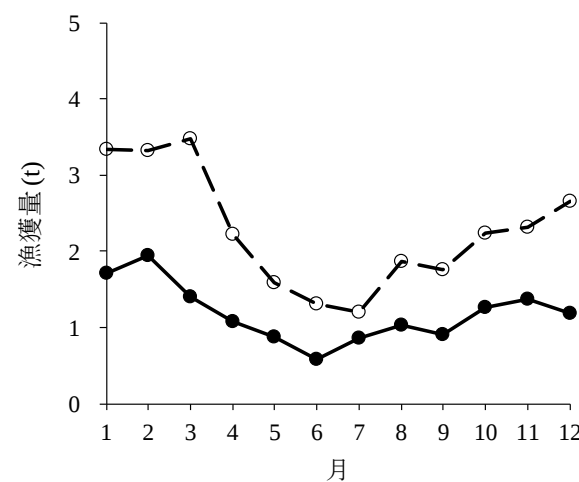
瀬戸内海及び紀伊水道外域標準3市場のまき網によるサバ類漁獲量



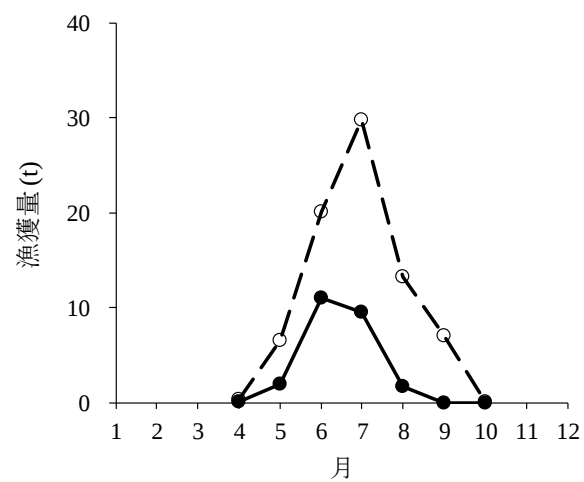
瀬戸内海及び紀伊水道外域標準3市場のまき網によるマアジ漁獲量



瀬戸内海及び紀伊水道外域標準3市場のまき網によるマルアジ漁獲量



瀬戸内海標準1市場の一本釣りによるマダイ漁獲量



紀伊水道外域標準1市場の棒受網によるウルメイワシ漁獲量

図2 主要魚種の月別漁獲量